

2013
10/17 木 17:50-18:50

パシフィコ横浜 E会場 [会議センター 5階 502]
横浜市西区みなとみらい1-1-1

脳外科診療における PET/SPECT診断の Pearls&Pitfalls



座長 宮本 享 先生

京都大学大学院医学研究科 脳病態生理学講座 脳神経外科学 教授



演者 中川原 譲二 先生

国立循環器病研究センター 脳卒中統合イメージングセンター 部長

略歴

■ 職歴

1978年 札幌医科大学医学部卒業
1981年 国立循環器病センター 脳血管外科レジデント
1994年 中村記念病院 脳神経外科部長
2006年 中村記念病院 診療本部長・脳卒中センター長
2012年 現職

■ 専門医

日本脳神経外科学会専門医
日本脳卒中専門医
日本核医学会PET核医学認定医

※本総会イブニングセミナーは整理券制ではありません

共催

一般社団法人日本脳神経外科学会第72回学術総会
日本脳神経核医学研究会
日本メジフィジックス株式会社

脳外科診療における PET/SPECT診断のPearls&Pitfalls

PET/SPECT研究の進歩により、脳虚血病態の概念として急性期のIschemic penumbraや慢性期のMisery perfusionなどの診断基準が確立してきた。しかし、脳虚血に対する血管性代償能(脳血管拡張)および代謝性代償能(脳酸素摂取率OEFの増大)の観点からこれらの脳虚血病態を再考する必要がある。すなわち、急性期の脳虚血については、Ischemic penumbra(脳血管拡張のないOEFの最増大)とは異なる脳虚血病態として、Acute misery perfusion(脳血管拡張のあるOEFの増大)が想定され、治療介入を許容するtime windowが両者では大幅に異なる。一方、慢性期のMisery perfusion(血行力学的脳虚血Stage2)については、脳血管拡張が著明であるほどOEFの増大が限定されるという関係を常に考慮する必要がある。罹病期間の長いもやもや病では、脳血管拡張が顕著となるLong-standing misery perfusionが想定され、脳血行再建術後のHyperperfusionの遷延要因ともなる。

国立循環器病研究センター 脳卒中統合イメージングセンター

中川原 譲二

About JCNN

日本脳神経核医学研究会について

日本脳神経核医学研究会は、脳核医学に関する基礎および臨床研究の推進とその普及をはかり、それを通じて我が国の学術文化の発展に寄与し、国民の保健と福祉の向上に資すると共に、国際協力につとめることを目的としています。

脳核医学の発展には、放射線科や核医学科において検査を実施する医師や技師に加えて、脳神経外科、神経内科、精神科などで実際の診療に携わる臨床医、装置や医薬品の開発を行う物理工学、薬学、化学などの基礎研究者の協力が不可欠です。本研究会は、これらの学際的な領域の医療関係者や研究者を対象に、セミナーや講演会などを開催して、脳核医学の幅広い普及をめざします。また、脳核医学に関する多くの課題について議論する場を設定して、検査法の確立、臨床使用のためのガイドラインの作成、国際的な枠組みの中で情報交換などを行っています。

研究会の会員相互の情報交換には、インターネットを活用して幅広く情報を提供していきたいと考えています。本研究会が主催、共催する行事や関連研究会の案内もホームページでご覧いただけます。会員が情報を共有するとともに、外部に向けて発信できる新しいタイプの研究会を指向して活動を行っていききたいと考えています。この趣旨にご賛同いただき、脳核医学の発展のために、是非本研究会にご参加下さい。

詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www2.convention.co.jp/jcnn/>

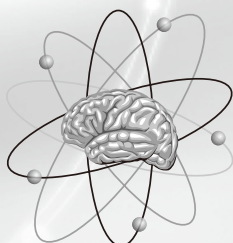
日本脳神経核医学研究会事務局

〒100-0013 千代田区霞が関1-4-2 大同生命霞が関ビル18F

日本コンベンションサービス株式会社内

E-mail: infojcnn@convention.co.jp

Tel: 03-3508-1214 Fax: 03-3508-1302



JCNN